

平成
27年度

公募

統計数理研究所の共同利用は、大学等に所属する研究者が、本研究所にこれまで蓄積されてきたさまざまな研究資源を活用して、統計に関する数理及びその応用の研究を行い、その成果をもって学術研究の発展に資するものです。共同利用参加者には、本研究所が有する最先端の研究資源と研究環境を提供します。こうした趣旨に賛同し、参画を望む研究者からの積極的な応募を歓迎します。

- スーパーコンピュータシステムや研究所が開発したソフトウェアなどの計算資源や図書を活用
- 研究所内外の研究者の交流など、人的資源を活用
- 研究所の有する統計科学全般に関するノウハウを活用
- 研究所施設の利用
- 研究費、経費の助成制度

(「共同利用登録」、「共同利用研究・一般研究1」は除く)

■公募する研究種別 ※種別の概要は裏面を参照ください。

- 共同利用登録
- 共同利用研究(一般研究1/一般研究2/重点型研究)
- 共同研究会

公募内容の詳細については、

<http://kyodo.ism.ac.jp/login> をご覧ください。

■参加資格

公募型共同利用への参加資格は、原則として国公立大学・大学院・短期大学、大学共同利用機関、高等専門学校、国立試験研究機関及び独立行政法人に所属する国内研究者又は科学研究費補助金の応募資格を有する者。

■申請方法

本研究所「公募型共同利用電子申請システム」トップページの「申請システムログイン」から手順に従い申請内容の登録をしてください。登録完了後、同サイトより承諾書をダウンロードして、必要事項を記入・押印の上、本研究所宛に郵送してください。

※公募型共同利用電子申請システム URL

<http://kyodo.ism.ac.jp/login>

電子申請システムよりの登録締切

平成27年 **1月7日(水)**

承諾書受付締切

平成27年1月15日(木) **必着**

お問い合わせ先
(承諾書郵送先)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
統計数理研究所 企画グループ研究支援担当
〒190-8562 東京都立川市緑町10-3

Tel : 050-5533-8513・8514(直通) E-mail : kyodo@ism.ac.jp

統計数理研究所 共同利用案内

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

最先端の統計数理ノウハウと
膨大な情報の集積を研究に活用!



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

<http://www.ism.ac.jp/>

研究種別概要

共同利用登録

研究所以外の機関に所属する参加資格者1名が登録することにより、統計数理研究所の資源を使って統計数理に関する研究を行うものです。

共同利用研究

統計数理に関する研究を行う目的で、以下の3種別に分けて公募します。

一般研究 1

統計数理に関する一般的な共同利用研究を行うものです。年度途中の申請ができます。

一般研究 2

統計数理に関する一般的な共同利用研究を行うものです。年度途中の申請はできません。

重点型研究

共同利用委員会で決定された下記の重点テーマに基づき、各テーマに関する共同利用研究を募集するものです。また、重点型研究終了後は、次年度以降に一般研究2へ移行し、研究を継続できます。

重点テーマ 1	統計教育の新展開 II
企画立案責任者	田村 義保(統計数理研究所 モデリング研究系 教授)
ね ら い	平成21年度、平成22年度に引き続き統計教育に関係した課題を重点型研究のテーマとします。今回は、新しい小中高の算数及び数学の指導要領で統計学に関する内容が大幅に改定されることや統計関連学会連合で「統計学分野の教育課程編成上の参照基準」が編集されていたことを受けて、重点テーマとして設定し、共同研究活動を行いました。まだ3年しかたっていませんが、実際に新指導要領での教育が開始され、統計検定も平成23年から始まっています。さらに、文科省「平成24年度大学間連携共同教育推進事業」に青山学院大学を中心とする8大学連携事業「統計教育大学間連携ネットワーク」が採択され、活動を開始しています。さらに、ビッグデータ時代を迎え、統計学が社会から多大なる注目を集めています。データサイエンティスト育成事業も始まっています。これらを受け、初等中等教育をどのように行っていくべきか、e-Learning教材や、統計教育に関したサイトをどのように構築していくべきか、大学の教養レベルだけでなく学科レベルの教育をどのように行っていくか等に関して、国内外の研究者や教諭が積極的に交流し、共同研究を行っていく機会を設けることは重要であると考えました。日本統計学会統計教育委員会、統計教育大学間連携ネットワークと連携して共同研究を進めて行くことも構想しています。
キーワード	統計教育の質保証、e-Learning、統計教育の国際比較、統計教育のための計算環境、統計教育の方法
継続年数	2年目
重点テーマ 2	ビッグデータの統計数理 II
企画立案責任者	水田 正弘(北海道大学 情報基盤センター 教授)／中野 純司(統計数理研究所 モデリング研究系 教授)
ね ら い	平成25年度、平成26年度に引き続き、「ビッグデータ」に関する課題を重点研究のテーマにします。「ビッグデータ」は、計算機、ネットワーク、センサーなどの技術の発達によりあらゆる分野で取得されるようになっており、それから重要な情報を引き出したり、意思決定に利用したりすることは非常に重要な課題です。統計学はデータに関する包括的な科学であり、このような要求に応える義務があります。「ビッグデータ」の特徴として、大規模性、多様性、高頻度性が挙げられることがあります。これまでも、それぞれの性質に対して統計数理の研究が進められていましたが、それらの成果が現代の「ビッグデータ」にも対応できるかどうかを再検討し、必要なら新しいものを開発しなければなりません。そこで、本重点テーマではビッグデータ時代にふさわしい統計数理(理論・応用)をもう一度検討し、社会の要請に応える成果を発信したいと思えます。
キーワード	ビッグデータ解析、ビッグデータ記述統計、ビッグデータ統計モデル
継続年数	新規
重点テーマ 3	次世代への健康科学
企画立案責任者	船渡川 伊久子(統計数理研究所 データ科学研究系 准教授)／逸見 昌之(統計数理研究所 データ科学研究系 准教授)
ね ら い	日本では少子高齢化・人口減少が進行するとともに、女性の社会進出など人々のライフコースや、将来の健康に影響を与える食事・運動・煙草・飲酒といった長年に渡る生活習慣や環境因子の変化もみられます。人口動態の変化やこれらの要因の長期的な影響をどのように評価し、疾病・死因構造の解明や予防に役立てるかの方法論は必ずしも確立されていません。グローバル化・IT化とともに、国内外のデータの使用が容易になり、新たなデータベースの整備が進む一方、長期動向を知るには遠い過去のデータも重要となります。既存データの活用法、新たなデータの収集法、統計解析法、情報の解釈・伝達法、実際の事例など、次世代により健康的な社会を残すため、健康科学に関する統計数理の研究を広く募集いたします。
キーワード	生物統計、健康科学、予防、ポピュレーションヘルス、人口、公衆衛生、疫学
継続年数	新規

共同研究集会

統計数理の研究及び関連領域との交流を活性化させることを目的として、研究集会を開催するものです。